



## 自助共助の社会づくり

一般社団法人72時間サバイバル教育協会  
代表理事 片山 誠

片山 誠

(株)ココロ 代表取締役 CEO

(一社)72時間サバイバル教育協会 代表理事

(一社)ジャパンキッズ 代表理事

固定観念にとらわれずに自ら考えて行動できる、  
自助共助の力を持った人を増やし、助け合いの  
社会を創るために全国で講習・講演活動中。

4泊5日の無人島サバイバルや、体験学習を通  
じて「教えず」に「学習意欲を引き出す」研修を数  
多く行っている。

JOLA2019優秀賞受賞

著書「もしときサバイバル術Jr」

「車バイバル！」

監修「目指せ！災害サバイバルマスター」



前回のおさらい



# なぜ防災教育が必要か？

1. 一人ひとりが命を落とさないこと
2. 被災時にみんなですぐ助け合うこと
3. 被災後、出来るだけ早く元の生活に戻れるよう対策しておくこと



# 防災教育の課題

- 自分事になっていないのでやる理由がない
- 無理やり教えられても楽しくないしやりたくない
- 年に1回くらいだと、すぐ記憶から消える
- 普段から災害のこと考えるのはつらい
- 意識高い人に任せておけばいい

あの時備えてたらよかった・・・  
まさかこんな悲しいことが起こるとは



本当に防災教育が必要と思うか  
それとも、起こったら諦めるのか

もし備えが必要と思ったらなら  
学んでおく必要がある

災害時に悲しい思いをしないために



「今」出来ることを「みんなで」やっておく



何をしたらいいのを知るために  
防災を自分ごと化する



自分ごと化するには  
学ぶ意欲をかきたてる  
きっかけ作りが必要

協会を目指していることは、  
子どもたちに自助・共助の力を！

# サバイバルマスター®認定講習



- 8つの講習を受け、検定に合格して、ワッペンをゲットしよう。
- 全部集めたらサバイバルマスターとして認定！
- 全国で開催中。



# もしとき サバイバル術

災害時に役立つ  
スキルを手に入れろ!

片山 誠

72時間サバイバル教育協会代表理事

イラスト= 高橋未来



Jr.

もしものときを生き抜く  
スキルとマインドを身につける

自分を守り、だれかを助ける

## 8つのプログラム

太郎次郎社エディタス



SOS

助けを呼ぶ



ファイヤー

火を起こし、使いこなす



ウォーター

飲み水を手に入れる



ナイフ

刃物で道具をつくる



シェルター

雨風・暑さ・寒さをしのぐ



ファーストエイド

応急手当をする



フード

かぎられた食料を  
おいしく食べる

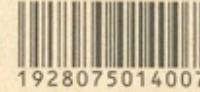


チームビルド

仲間と避難所生活を  
乗りこえる



9784811808284



1928075014007

ISBN978-4-8118-0828-4  
C8075 ¥1400E

定価：本体1400円+税

発行：太郎次郎社エディタス

救助の現場では、  
災害発生後3日間の動きが  
勝負を決めるとされる。  
災害発生時とその後を  
生き抜く力を子どもたちに  
自然体験・減災教育を手がける  
各地のリーダーが集結。  
真のサバイバルマスターをめざし、  
多くの仲間たちが参加する  
「72時間サバイバル」の  
プログラムを、きみにシェアする。

# 公式テキスト

アプローチとしては、

体験してみたいと興味を持つ



出来るようになった、もっとやりたい



気が付いたら自助共助も意識

人は潜在的に、自分の出来ることで  
誰かの役に立ちたい、という気持ち  
を持っているのではないのでしょうか



楽しい防災教育は、遊びの楽しさで  
はなく、人の役に立てるように  
自分が成長出来る楽しさ

ただ活動を行うだけではなく  
これができるようになると  
どんなメリットがあるのかを考える





# イベントの事例





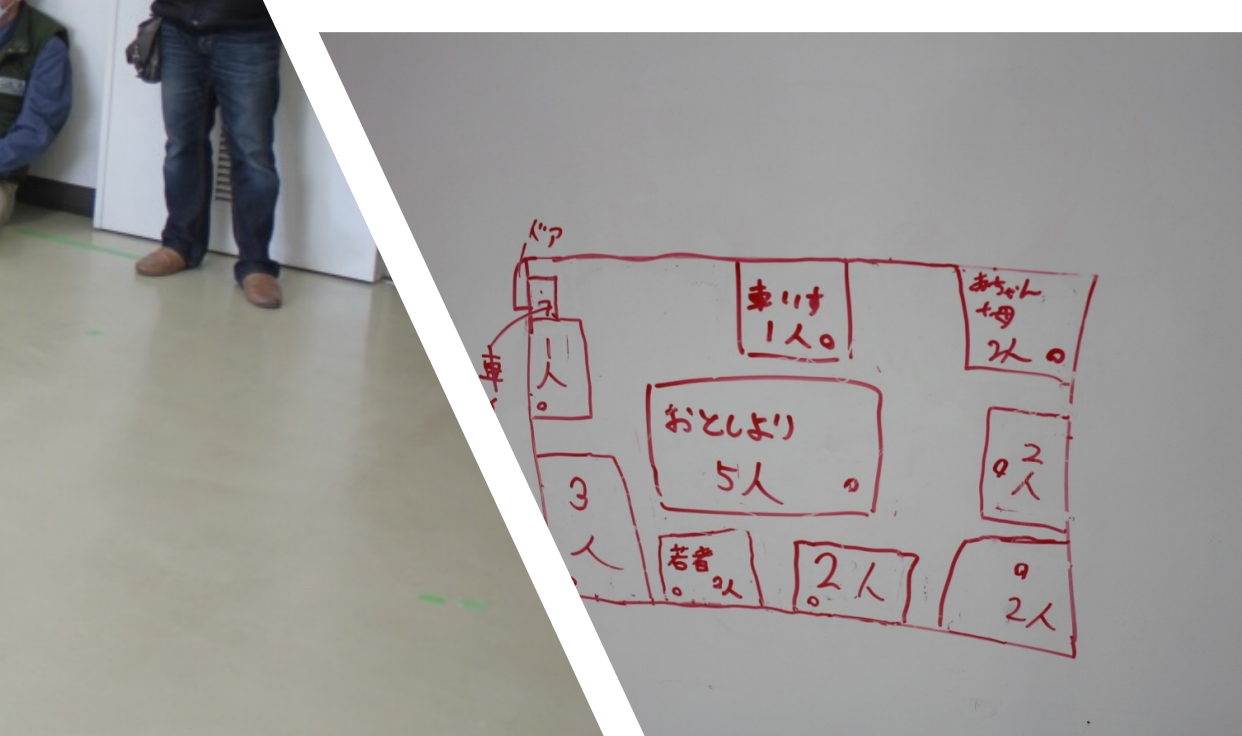












避難所運営を通じて  
要支援者の存在を知る



共存する方法を考える



日常にも要支援者がいる



フェーズフリー



モノやサービスだけでなく  
一人ひとりのスキルや意識も

キャンプを楽しむスキルを持つ



いざという時も不便を楽しめる



結果として支援側に回れる

地域で顔見知りを増やしておく



いざという時も心の支えになる



結果として助け合いがスムーズに

## 過疎地域では

一人暮らしのお年寄りと若者で  
バディを組んで普段からコミュニ  
ケーションしておくといった仕組み

都会では

地域の中学生が、有事の際に  
率先して動けるように役割を与え  
事前に学習をしておく

このような仕組みを学生の皆さんが  
主体となって考え、役割を担い、  
実践する場を設けることによって、  
他人ごと→自分ごとへ

助け合いの社会を創っていくのは  
公務員や政治家の役割ではなく  
地域にいる人たち全員です

そのために何を目指し、何から始め、  
何をしていくのか、まずはここにいる  
方から一緒に考えていきませんか？



ご清聴ありがとうございました